

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断D.I.**は、「悪い」超に転化した。
—— 製造業は、「悪い」超に転化した。非製造業は、「悪い」超幅が縮小した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	繊維	販売価格の引き上げなど
	悪化	電気機械、食料品、窯業・土石製品、はん用・生産用・業務用機械	一部新興国向け輸出の減少、国内の自動車関連受注の下振れ、公共工事受注の減少、暖冬による季節商品販売の下振れなど
非製造業	改善	対個人サービス、不動産、卸売	個人消費の回復、原材料価格の低下など
	悪化	建設、対事業所サービス、物品賃貸、宿泊・飲食サービス	公共工事受注の減少、イベント開催による県内観光客増加の剥落など

- **先行き**については、「悪い」超が拡大する見通しである。
—— 製造業、非製造業ともに「悪い」超幅が拡大する見通し。

(事業計画)

- 2015年度の**売上高**は、前年を上回る計画、**経常利益**は、前年を下回る計画である。前回調査対比では、売上高は前回調査並みとなり、経常利益は上方修正となった。
—— 経常利益は、製造業で、為替効果の剥落、自動車や県内の公共工事関連需要の減少などから、減益の計画である。非製造業では、個人消費の回復や原材料価格の低下などから、増益の計画である。
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業で、一部新興国向けの輸出や県内の公共工事関連需要の下振れなどから、幾分下方修正となった。非製造業では、県外の公共・民間工事関連需要の獲得、個人消費の回復、原材料価格の低下などから、上方修正となった。

- 2015年度の**設備投資**は、前年を下回る計画である。前回調査対比では、上方修正となった。
 - 製造業は、前年の大型投資の反動から、前年を下回る計画である。非製造業では、店舗や物流倉庫の新設・改装、社屋の建て替えなどから、前年を上回る計画である。
 - 前回調査対比では、製造業で、需要の増加を受けた生産設備の増強や、老朽化した設備の更新投資を上積みする動きがみられたことなどから、上方修正となった。非製造業では、個人消費の回復を受けた店舗の新設・改装や、老朽化した設備の更新投資を上積みする動きがみられたことなどから、上方修正となった。

(その他の判断項目)

- **販売価格判断D. I.**は、「下落」超幅が拡大した。**仕入価格判断D. I.**は、「上昇」超幅が縮小した。
- **雇用人員判断D. I.**は、「不足」超幅が拡大した。
- **資金繰り判断D. I.**は、「楽である」超幅が縮小した。**貸出態度判断D. I.**は、前回と同じ「緩い」超となった。**借入金利水準判断D. I.**は、前回と同じ「低下」超となった。

以 上